コロナ禍での生活困窮者支援は

町長

必要な支援について取り組む

質問 **「生活困窮者自立支援制度」を活用したコロナ禍での生活困窮者支援の現状と、今後の取組を問う。**

答弁 **町長**　玉村町において、「生活困窮者自立支援制度」に基づく困り事の相談窓口「自立相談支援機関」は、玉村町社会福祉協議会となっている。

社会福祉協議会によれば、コロナ禍において最も多い相談は生活費に関することで、特に「緊急小口資金」及び「総合支援金」の貸付けや、「住宅確保給付金」の給付に関する相談が多いとのことである。

今後の取組については、町と社会福祉協議会の連携を一層、密にするとともに、より手厚い支援を行うため、町が実施している食料支援であるフードドライブをフードバンクに移行する等、コロナ禍における生活困窮者が必要な支援を受けられるよう努めていく。

これらの貸付けや給付を活用しても生活が立ち行かない場合は、生活保護の利用相談に移行していくこととなる。

質問 **生活保護への対応は。**

答弁 **町長**　生活保護受給者は、令和元年度末において184名だったが、5月24日現在では211名となっており、増加傾向にある。

長引くコロナ禍において、引き続き、生活保護申請の受付や決定を担当している県の保健福祉事務所と連携を取って対応していく。

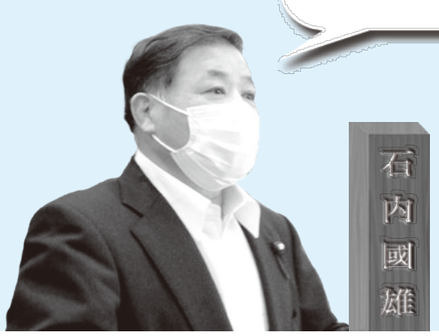
質問 **ひとり親世帯の収入減に対して町の補助はあるか。**

答弁 **町長**　ひとり親世帯の収入減対策として、国の施策による給付金を支給したほか、町独自の取組として、昨年5月と今年4月に「低所得世帯臨時子育て支援金給付事業」を創設し、対象児童1人につき2万円を支給している。

今後も、コロナ禍で奮闘する子育てと仕事を一人で担っているひとり親家庭の支援に取り組んでいきたい。

6月に実施したフードドライブのチラシ

防災対策の現状は



町長

避難所のレイアウトを作成した

質問 **令和元年の台風19号の際の課題や新型コロナウイルスの影響を踏まえた防災対策の現状は。**

答弁 **町長**　学校校舎も可能な限り活用し、避難者のソーシャルディスタンスを確保しながら、体調不良者や発熱者が避難するための専用の部屋を確保できるよう、5つの小学校と南中学校の避難所レイアウトを作成した。

質問 **災害情報の伝達に関する対策については。**

答弁 **町長**　情報弱者の方々へ確実に情報を届けるため、新たに固定電話等への情報伝達システムを考えている。

質問 **恒常的に雨水があふれる水路の把握と整備・対策はどうか。**

答弁 **町長**　把握については、地元区長等からの情報やパトロール等から把握している。

莫大な工事費用が必要となるため、町財政を考えると全てに対策を講ずることは困難な状況となっている。今後、冠水箇所の被害状況等を勘案し、効果的な対策を研究したい。

板井の内水被害（令和元年10月）

コロナワクチンの接種対策は

質問 **介護サービス事業所のなかには、ワクチンの優先接種の対象とならない事業所がある。優先接種すべきではないか。**

答弁 **町長**　現在は高齢者への接種に全力を挙げているが、エッセンシャルワーカーへの優先接種を考える段階が来ると考えている。

質問 **集団接種も必要になると考えるが、予診票の記入や接種予約にボランティアの活用を考えてはどうか。**

答弁 **町長**　接種の担い手の確保等、検討を重ねながら、柔軟に対応したい。

集団接種について今後詳細を詰めていくなかで、ボランティアの活用も検討していきたい。

死亡届出後の手続き一元化を

質問 **死亡届提出後の手続きを一元化した窓口を設置する考えはあるか。**

答弁 **町長**　ハード・ソフト両面で難しい。窓口に来られた方が戸惑うことなく手続きが行えるよう、職員間の連携を密にして、今以上に住民サービスに徹していきたい。